

第3回ふしま元気トークまとめ



【開催概要】

日時	令和4年12月10日(土) 午後1時30分～3時	
テーマ	女性の活躍は∞(無限大)	
場所	クリエイティブビジネスサロン 交流スペース	
出席者	(1) 宮谷 理恵さん (2) 高梨 知美さん (3) 西野 詩子さん	(4) 渡辺 明美さん (5) 加藤 沙智さん (6) 齋藤 久美子さん
(福島市)	木幡市長	

【市長あいさつ】

皆さんには、今日は起業者の代表といったことでお集まりいただきました。日頃から福島の町に元気をつけていただいていること、まずお礼申し上げたいと思います。

今回、女性の起業をテーマにお話をさせていただきますが、いろいろ積極的に仕事を進める中でも、福島市、福島県全体がおとなしい面があるんです。それから、市でも企業誘致はやっていたんですけども、地域の中から創業を応援するという取り組みはちょっと弱いものがありました。その点では、これからはやっぱりこの町の中で次々という湧き上がってくるような、そういう経済構造にしていかなきゃいけないと思い、創業というのに力を入れ始めました。

それから、もう一方で、やはり女性の活躍の場がやっぱり少ないというのは感じておりました。皆さんのように頑張ってやっていらっしゃる方もいらっしゃるんですけども、やっぱり総体的に女性の活躍の場というのは、雇用の場もそうだし、起業の面でも多いのではないかと感じておりました。

昨年度ぐらいからは、それまでは女性の大学みたいなことをやっていたんですけども、もっと創造的なことをしようというので、女性の起業を応援するのを力入れ始めました。特に、女性とのトークをやったときに、起業をやるにしても、女性の起業のパターン形態が男性とは結構違うんだと。やっぱり女性には女性に合った起業の応援をしないとうまくいかないよというのを大分言われていたんですね。それで、かなり伴走型の取り組みとして、今般、起業女子応援パッケージというのをつくって、今力を入れているところです。

いいものはどんどん取り上げてやっていきたいと思っておりますので、ぜひ今日は活発にお話をいただければと思います。



【主な発言】

(1) 宮谷理恵さん Rainbow Moonー虹月ー (ピラティスインストラクター)

8年前に福島県のほうに移住しまして、もともと看護師なんですけれども、いろいろ看護師の仕事として転職をして、県内の他の自治体で健康づくり、心のケアなど仕事に携わり、心と体の健康を大切にしたい仕事に関わりたいたいと思ひ、結果的に起業という道を選びました。

現在、自分のピラティスという、心と体のバランスを整えるための手段として、そういうピラティスの仕事を生かしながら、看護師の仕事とピラティスの仕事を今、パラレルワークという形で実際に起業してやっていますところですよ。

(2) 高梨知美さん まちなか食堂はらくっち (家庭料理飲食店)

4年ちょっと前ぐらいに、4年前の8月に、福島市の新町の路地裏の小さいお店で食堂を始めました。もともとは栄養士の資格を持っています、社員食堂とかで働いた経験があるんですが、そこからまた違う、全然違う職をいろいろ経験した後、やっぱり飲食をちょっとやりたいなと思ひまして一念発起して、いろんな方に相談とか支援を受けながら起業、お店を開いた次第ですよ。

(3) 西野詩子さん 西野うさんぐらす商会 (ハンドメイド制作)

起業しまして3年目になります。それまではずっと30年間関東のほうに住んでいて、そちらのほうでハンドメイドの仕事とか革の職人の修行などをしておりまして、福島のほうに戻ってきてからは、独立起業という形で起業いたしました。

それで、起業してから、どうも元気がなくなっている、どうも活気がなくなっている福島、何でだろうとずっと考えていて、若者の今、起業支援とかそういうのもちょっとやって、今、ほりこしメンタルスクールと凸(デコ)ゼミさんのほうで、物づくりをすることで就職支援をするというのを本業のほかにもちょこことやっております。

本業は、一応全国からいろんなお仕事をもらいまして、物を作ってそれを出荷するというような仕事をしていきますので、そちらのほうでも生徒さんが来てくださったり、お子さんに教えたりとか、それでも今のところ充実した仕事をさせていただいております。

(4) 渡辺明美さん 一般社団法人アイプロデュース (子育て支援、起業支援)

7年前にママcomという個人事業主で開業いたしました。その後、5年前にコラボスペースCocoというコミュニティスペースをスタートさせました。そして、3年前に一般社団法人アイプロデュースを立ち上げまして、代表理事を行っております。そして、昨年なんですけれども、ふくしま女性起業家活躍推進協議会副会長の任をあずかりまして、あと県北支部の支部長をしております。

仕事の内容は主に講師業で、それからコラボスペースCocoという会場貸しの運営をしております。あとは、ちょうど今日のテーマになっております女性起業家の支援というものを今やっているんですけども、そもそもコミュニティスペースを始めたときが、私のそういうニーズがあるんじゃないかなということを感じ始めた時期でした。そもそも創業したとき、子育て中のお母さんたちが県外避難、福島県で県外避難をしているお母さんたちのメンタルサポートをしたいと思ひて起業したんですけども、そこからだんだん女性のニーズというのが見えてきて、だんだんシフトしてきたのが、今現在は、起業家のお母さんたちのほうの支援、創業支援のほうに今力を入れているようなところですよ。

(5) 加藤沙智さん おうちdeパソコン教室 (パソコン講師)

私は女性限定の出張パソコン教室というので起業して、今年で6年目になります。やっているうちに、私を必要としてくれる方が、気づいたら女性の起業家さんと個人事業主の方がやっぱり困っている方が多いということで、気づけば私のお客様もほぼ100%女性の起業家さんという形で、今現在もやっております。

私はもともと福島市のICT支援員で、小学校に派遣されてというか、というのをやっていた、その契約が終わったときに、何かパソコン教室で働こうかなと思ったら、求人が夜と土日しかないみたいな形で、私は平日の日中だけ働きたかったので、自分でやっちゃおうみたいな感じで起業をした形になったんですが、子供も大きくなりまして、先月からちょっとダブルワークを始めようと思って正社員雇用していただいて、このパソコン教室のほうを副業としてダブルワークという形でスタートしたばかりで、思っていた以上に甘くないなと、もう休みがないみたいな感じでてんでこ舞いしている真っ最中で、いろいろ悩んでいる最中でございます。

(6) 齋藤久美子さん 株式会社f'sぼけっと(旅行企画、町おこし)

株式会社f'sぼけっとの代表取締役の齋藤久美子と申します。ご縁がありまして8年前に福島市に移住してまいりまして、当時、復興関係でかーちゃんの力・プロジェクトというのがあり、そのかーちゃんの力・プロジェクトを1年間手伝うという話でこちらにやってまいりました。ただ、1年過ぎて何ができるかと考えた結果が必然的に起業ということになり、クラウドファンディングで多くの方々に応援していただいて株式会社を立ち上げました。

会社としましては、旅行業と、それから周りに様々なことをやりたいとおっしゃっている方たちの事業のサポート、それからいろんな方たちに体験していただける観光用の野菜畑を運営しています。それ以外にも去年、町の方たち、特におじいちゃん、おばあちゃんですとか、それから小さい子供たちに町を楽しんでほしいなと思ひまして、任意団体で松川町Enjoyプロジェクト実行委員会というのを立ち上げまして、現在、松川町の朝市の事務局を担当しております。

【起業サポート①：起業支援者のサポート体制】

(1) 宮谷理恵さん

私が、4年前起業したときに、起業しようと思って十分な下準備をして起業したわけじゃなかったもので、なかなか人脈もなく、ピラティスをする場所というのがなかなか見つけられなかったんですね。起業支援者にサポートしていただきながら見つけていくという形になったんですけれども、当初、福島県の男女共生センターさんで講師デビュー事業というところでお世話になりまして、ピラティスの講師ということと、当時ハーバリウムというのもやっていたのでハーバリウムの講師として、広告であったり会場の準備であったりとか、そういうところをお手伝いしながら体験させてもらったということがとても大きかったなと思います。

福島市さんでもそういうふうなサポートいただける体制というのはあるんでしょうか。

なかなかそういうふうなつながりもなく、甘いといえば甘いんですけども、そういうふうなサポートを受けられると少し心強いなというところは、思うところがありました。あと、会場を探すのにもですね。

(2) 高梨知美さん

今、コワーキングスペースもちょこちょこ増えていますし、若い人がお店出しやすい環境が結構整っていて、何かやりたいなという人のために、④この企業姉さんとかの企画もすごくいいなと思ったんですけども、何となくちょっと相談できるような仕組みがあるといいのかなと思いますね。

(4) 渡辺明美さん

どうしても自分で私のビジネスってすごいよという自信がない、やっぱりメンタル面のそういうところがやっぱりちょっと弱いので、自分の商品を自信を持って勧められるような、その辺も、今の一番スタートアップの方の次の段階になったら、そのメンタル面の支援の内容とかも含めていただけるといいのかなというふうに思いました。

(6) 齋藤久美子さん

県外から移住して起業していますが、まず1つ目が、会社をつくったり何かを始めるときって必ずネットワークが必要だと。

市長

○起業姉さんがそういう役割になるということなんですかね。
あと、そのお店探しというか、店舗探し自体大変だと思うんですけども、それに関しては、空き家バンク制度が多分それを使えるんじゃないかと思うんですね。多分空き店舗の相談もできると思います。

○それから、私のほうでこの間も不動産関係の人たちの会合で、福島市が町なかでの起業をどんどん応援するから、皆さんもしっかりと情報提供してくれと頼んでるんですよ。だから、そこはむしろ不動産屋さんにも直接言ってもいいだろうし、あと全部回るのが大変だったら、まさに空き家バンクですね。

だから、我々も起業を応援しますよというときに、いわゆる支援策とかそんなのばかりじゃなくて、具体的にこういうところ行ったらこういう相談ができるよというのが大事だということだよ。

○その点では、前の宮谷さんと共通している部分がありますよね。だから、企業姉さんというのはどちらかというに伴走型になっているんですよ。だから、むしろ伴走型に入る前が必要なかもしれないね。だから、要するに、誰でもここに一旦話してくれれば何らかのサポート、相談乗って、そこからちょっとつなぎますよというのが大事なのかな。

○あえて「ビジネス素人サポート」のぐらいのほうがいいかもしれないね。ビジネスに関して素人の人に対するサポートですよ。

【起業サポート②：会場、お試しスペース、可視化やマップ】

(1) 宮谷理恵さん

女性というのは、家庭のことや子供さんの都合により、週1回、2回とかで関わりたいという人たちもいると思うんですね。土日限定とか、1日だけでも貸出しをしてもらうような、そんなふうな場所があるといいなというのも思いました。

(2) 高梨知美さん

やっぱりちょっとお試しでちょっとお店をやってみたい、みたいなのができるスペースがあるといいなと思っていて、お店を出してから知ることが多かったので、そういう情報をどこかでまとめてくれないかなというのがあるといいのかなと思いますね。

空き店舗みたいなのはあるんですけども、テナント募集と出ていない、シャッターが閉まっているお店が結構あるので、空いているのか空いていないのかわからない。こういう時には、ネットワークみたいなのがあるとすごくいいなと思いますね。

(4) 渡辺明美さん

民間でも会場貸しをしているところって実は結構あるので、それを何かマップ化にしていただいて、リストをどこかに取って、スタートアップの女性に、こういう場所でヨガができますよとか、講座はこういうところだと入場料もちゃんと自分の手元に残るし、会場代もそんなかからないですよみたいな情報を何かリストにしてお渡しすると、その問題も解決できるのかなというふうに思いました。

お試しの場なんですけれども、何かしらやっぱり民間でもそういうことを考えている方はいらっしゃると思うので、それもリスト化して、起業の皆さんのために何かお力になれるような場所というの提供されるようになっていくといいのかなと思いました。

(6) 齋藤久美子さん

マップを作って会場を可視化したらいいんじゃないかと。貸す側も信頼した人に貸したいという思いがある。利用する方は必ず登録をするというところが、こういう人材バンクとちょっとリンクするところもあると思うんですけれども、登録して、登録した人は申込みをして、何らかの形で利用できる。登録することで、どういう人たちがどこに点在しているかということも何か分かるような気がしたので、何かそういう人材を集める、あと現状を把握するというところに何かつながるのかなと。

市長

〇うまくそれが、そういう人のニーズが組み合わさっていくといいんで、だからそのマッチングがうまくできればいいんだろうと思いますけれどもね。

まさにこういうところを使ってもらおうというのが一つなんですよね。だから、ここであれば、あそこのデスクワークを使ってもらえば、それはもうコワーキングスペースですから、ここに入ったらリモート環境は全部オーケーですし、あと、ちょっと打合せをするというんだったら、非常に安く会議室なんかも借りられるんですよ。

〇空き店舗を何とかこれからもうまく活用して町の活気をつけたいと思っているんですけれども、実は貸し出せていないのが非常に多いんですよ。というのは、やっぱりもう耐震性が十分じゃないとか、そうやって実際は貸していないんですよ。もうどうにもなくなっている、みんなそれで壊しちゃって、単に平場の駐車場にしちゃっているんですよ。その点では、何か町自体がもう何か不動産投資がなされていない感じがするんですよ。

その一端でまた感じているのは、何とか町にファッションを持ってきたいなと思って考えていても、ファッションが入るビルがないんですよ。結局、飲食は割と小規模なスペースで取れるんですけれども、ファッションの場合は、本当に個人のお客さんがついているような店じゃないとなかなか小さいところ選択ができないから、簡単じゃないんだろうと思うんですよ。その点では、ちょっと不動産をもっと、ちょっと活気づけないといけないな、なんて実は今思っています。

【その他のサポート】

(4) 渡辺明美さん

これからの女性の活躍という今日テーマでしたので、女性の活躍を促すにはやはりキャリア教育というのが必要なのかなと考えていまして、外部講師みたいな外からの私たちみたいな経験者みたいな人たちを入れて、こんな人もいるよというのが何か1年間に1回でもいいので、出張みたいな感じで子供たちとお話する時間があってもいいのかなと。中学生はもうちょっといろいろな段階的にあると思いますし、学校教育にどれだけ私たちの意見が入れてもらえるのか分からないですけども、前提としてキャリア教育、小さいときから必要なのかなということ。

今、行政改革推進委員と公共事業評価委員、2つやらせていただいているんですけども、ぜひその委員の場に、若い子育て中のお母さんぐらいの、本当に民意が行政に届くような、そんな委員をぜひぜひ入れていただきたいなと感じています。

人材育成はやはり小さい頃から必要なのかなと思って、考えています。要はコミュニケーション能力がすごく落ちていて。

市長	<p>○実は、皆さん思ったほど我々行政が実は情報持っていないんです。だから、さっき、こういうのをやってくれるといいというのが実はないんですよ。</p> <p>みんなそういう面での外とのコミュニケーション、市役所自体もちょっと閉鎖的だった分だけ、実はそんなにないですよ。そこは、我々市のほうもこれからまた、よりオープンな形に改めなければいけないという部分なんですね。</p> <p>○若い女性のお母さんを委員にしたらいいいじゃないかというんですけども、それはむしろ皆さん以上に我々がしたいんですよ。いろんな女性委員の目標立てているわけですね。何とかそのパーセンテージは達成したい。</p> <p>それから、ややもすると市役所の担当者は、一遍やっちゃうと、例えば渡辺さんというのは非常にいい人だと、みんなでもう渡辺さんばかりやろうとするんですよ。だから、僕はそういうのはもう駄目だと言って、もうできるだけ分散しろと。いろんな人を発掘して、それでいろいろやらないと駄目よと言って、私自身はどんどん増やそうとしているんですけども。これも、だから意外と情報が少ないんですよ。やっぱり難しいんです。</p> <p>あとは、やっぱり周りを納得させるための一つは根拠が必要なんですよ。そうすると、どうしても役職というのが大事になってきたりして、例えば同じ若い人でも、どここのPTAの何とかさんとか、役職やっている人とか、そういう面も出てくるんです。</p>
----	--

(4) 渡辺明美さん

「小さなビジネスの始め方」という起業する女性の応援をする講座をつくってまして、今、5期目なんですけれども、そこで見えてきているものというのが、やはり集客というのが難しい。男性とは異なり、女性は出産だったり、またよそ者もいるんですけども、ほかの地域から来ていたりして、縁が切れてしまうことってすごく多くて、どうしても集客に関してのデメリットがすごく多いですね。

◎行政で広報していただくと分母数が多いので、自分の事業は小さくても、それを知ってもらうことによってお客様とのマッチングの確率がすごく高くなるということなので、ぜひホ

ソカワさんにも、来年度きっと企画があると思うんですけども、そうした行政の方から企画してもらった上でインターンみたいな形でデビューさせていくような仕組みってすごくやっぱり効果的だなと思っていたので、ぜひその辺をお願いしたいなということが1つ。

(5) 加藤沙智さん

福島市に限らずなんですけれども、ほかの自治体とかで行政が主催するSNS講座だとか商工会議所とかがやっているものに参加した方が、難しくて何言っているか分かんなかったというところからそれを持ってきて、翻訳を求める。やっている内容がもっと、もう1段階前のものももっとたくさんあるといいのかなと、ちょっといきなり高度なものからスタートという感じなのかなと思って、あと、男性、女性とかというのもどうかと思うんですが、男の人が使う言葉は難しくて分からないと。何かもっとかみ砕いて初心者向けに易しく、女性でこういう活動をしている人あまりいないからという形で私のところに来てくれる人も多いんですけども、もっともっと、SNS、ウェブ系の話とかデジタル系の話というのは、もう皆さん、苦手な方というのはもう多分、片仮名出てきただけで拒否反応が出るというか、もう少し頭に入ってこないと思うので、もっともっと易しい内容のそういう起業する方に寄り添った講座とかがあるといいのかなと思いました。

市長	<p>○SNSとかデジタル講座だと今、例えば福島市、実は今年だけでも高齢者向け百何十回とやるんですね。そこは大分よくなっていると思うですよ。</p> <p>ただ、おっしゃるような話は多分あるんだろうと思う。例えば、市が直接やらなくとも、民間会社に委託する形になります。そうすると、やっぱりデジタルの専門系の会社がやるとすると、その方々がデジタルのまた専門用語がでてしまう面が多分に多いんでしょうね。そこはまた、これから反省しなきゃいけないと思う。</p> <p>この間、福島市はデジタル都市宣言やったんですね。これは取り組みが進んでいる先進地が多いんです。実はそこまでまだやっていないんです。あえてやっていない面もあるんです。そこまでの体制がないから。だけれども、福島市は高齢者にも優しいデジタル化を推進しますというので、未広がりでも根こそぎ変わっていくような、そういう取り組みをやろうとしているんですね。</p> <p>今、福島市のシルバー人材センターは、デジタル班ができています。それから、自分たちの会員の連絡を9割はメールやあるいはSNSでやっています。そうやって今、変わってきているんですね。だから、そういう人たちにむしろやってもらおうと思っていて、今度は、だから高齢者は高齢者のサポートやってもらおうと。高齢者の、だからシニアサポーターみたいのつくってやってもらったり、あとは、今言った講座を受けた人は講座の人だけでクラブつくってやってもらおうかと。そうすると自分たちのレベルでいろいろできるんで。</p> <p>だから、同様に起業家の皆さんもまた、こうやってコミュニケーション取られて、そこにまたどんどん集まってくると、またノウハウが高まるのかもしれないね。</p>
----	---

(4) 渡辺明美さん

何かネットワークとかつくって、子育ての経験を、あなたの子育ての経験を生かしてほしいんですみたいな、何かそういうところをつくって、活動的な、例えば起業女子もそうですし、現在働いている女性の人たちがもうちょっと動きやすいようなサポート、多分ボランティアだとまあいいかなと思うので、有償サポートか何かにして、ちょっとお小遣いも稼いでください、そして社会貢献にもなりますよ、そしてお母さんたちもとても喜んでくれるという、そういう価値も提供できるんですよみたいな、何かそういう仕組みが

市長	<p>○そういうマッチングシステムというのはある意味理想的で、考えるんですよ、ただ、現実がついてこないんです。というのは、例えば今、我々もできるだけ保育士にしても正規化しようとは思っていますけれども、やっぱり正規化だけではなくて、やっぱり臨時の人が必要なんですよ。ところが、必要な部分って例えば保育士だったら早朝とか夕方とか、みんなが働きたくないときに限って欲しいわけですよ、我々として必要なのは。あるいは利用者の立場からすると。ところが、働きたいという人は、ちょうど暇な日中とかね。これミスマッチなんですよ。だから、集まらないんです、現実には。</p> <p>だから、とはいえ、あまりにもこうやって保育士とか、あるいは看護師さんなんかもそうですけれども、非常に不足化している状況なんで、一旦離れた人がまた気が変わるということもあるんで、できるだけまたそれも掘り起こしてはいこうと思うんですけれども、本当に一番つらいのは、まさに需要と供給が合わない。そこはちょっと、ぜひご理解いただければなと思います。</p>
----	---

【イベント支援】

(2) 高梨知美さん

まちなか広場で毎週のようにイベントをやっているのに、「え、そんなのやっていたんだ」と、終わってから言う人が多いんですよ。

イベントの告知方法とかが何かもうちょっと、何かいいののないのかなみたいな、拡散がなかなか難しいなど。

(3) 西野詩子さん

アオウゼとかでイベントをやるときに場所を借りるんですけれども、やりますと言っても、市町村がやっているイベントじゃないと載せてくれないんですよ。多分それって全部そうで、個人的なレベルでやっているイベントというのは多分載せてもらっていないんだと思うんです。だから、そこも載せていただけるとすごくありがたいかなと。そうになると、個人でやっている人たちがチラシ作って個人的に配ってというのって、やっぱり結構限度があって厳しいので、それも、個人的なレベルでやっているイベントもちょっと載せていただけるとありがたいかなと思っています。

市長	<p>○本当にある意味で永遠の課題なんですよ。あとは、もう一つは、出しても結局、受け取る側が自分でそれに着目しようとしないと、はっきり言えば抜けるだけなんですよ。街なか賑わい創出プロジェクトというのがあって、町なかのやっているカレンダーはそこを見れば全部分かるよというような形は持っていこうとしているんです。現実には今、もう商工会議所でやっているんですけれどもね。</p>
----	--

	<p>だから、その存在自体をまずは我々がもっと知らせなきゃいけないし、仮に知ったとしても、心だんあまり行こうと思わない人は多分見ていないんですよ。見ないから、後になって、え、やっていたのって話にはなるんだと思うんですよね。</p> <p>それはどこに載せるかだと思うんですね。町なかでやっているやつは基本的に通りでやっているのは、載せているんですね。あるいは、できるだけそういうのは、言ってもらえればというか、載せるようにはしている。</p> <p>ただ、今のアオウゼのようなのは、これはむしろアオウゼの中の話ですよ。それは逆に、情報って今度、あふればあふれるほど逆に今度、みんな見なくなるんですよ。だから、それはアオウゼに注目しているんならアオウゼの中でやるし、あとは関係するハンドメイドとかそういった人たちの関心のあるようなコミュニティとか、あるいはそういうタグをつけてまた流して広報するとか、やっぱりそういう工夫が要るんだろうと思うんですよ。だから、私も気をつけているのは、見てもらえばいいんですけども、相当今、福島市は出しています。でも、出せば出すほど逆にみんな見なくなったりもするんです。</p>
--	---

(6) 齋藤久美子さん

起業というすごいハードルが高そうなんですけれども、学生さんたちが何かやりたいといったことを形にする、応援する手伝いをしていただけると、そんなところから新しい起業家が生まれてくるのではないかなと思っています。

市長	○町なかでイベントをやるときには、学生さんがやるのは、実は10万円までであれば全部、うち出せるんですよ。だから、福大生が、街なか交流館でワールドカップのパブリックビューイングやったでしょう。
----	---

【その他 課題等】

(6) 齋藤久美子さん

町なかに人の流れをつくるというところで、車社会なので、子供の頃から親御さんが運転する車に乗って、もちろん大人になっても車に乗ると公共の乗り物に乗る習慣がないみたいなんです。もうちょっと公共の乗り物に乗るといいことがあるということが起こって、みんなが公共の乗り物に乗るようになれば、町も活気づくんじゃないかなと思っています。

市長	<p>○本当にこれは、我々もぜひそうしたいというんで公共の乗り物をしていて、あと最近ちょっとまた変えて、パークアンドライドのような、そういう取組も今始めています。大分ようやく浸透してきたんで、この秋はかなりの実はパークアンドの利用もありました。</p> <p>それから、お年寄りの話でいうと、公共交通だけでやっているのはもう限界なわけですよ。現実、松川では全然使えないところがあると思います。それはまた、小さな交通という別の仕組みを公共交通の空白地域につくって行って、それでみんなが何かしらの足を確保できる仕組みはやっていきたいと思います。</p>
----	--

(6) 齋藤久美子さん

松川町、残念ながらほとんど下水道が通っておりませんで、浄化槽問題が引っかかってくるんですね。物件はあるけれども、浄化槽をつけるのに莫大なお金がかかってしまう。だから、じゃ、その物件は諦めるしかないということが起こっているの、そこを何とかしていただくと町が元気になります。

市長	○下水道。これは本当に、やっぱり後れてきたんで、これからこれまでの大きな計画を我々ちょっと縮小していこうと思っています。はっきり言って、いわゆる公共下水道は難しいんですよ。それだけまたお金が物すごくかかっちゃうんで。その分、合併浄化槽のところには補助を出して、使いやすくしようかなと思っています。ちょっとその辺の政策転換、物すごく大きいんで、今ちょっと仕込んである段階なんですけれども。でも、今そういう話、また具体的に伺えてよかったです。ありがとうございます。
----	--

【まとめ】

○市長

今日、多分一番役に立ったのは市の職員。やっぱりこういういろんな意見があるんだということで、ふだんからそういうコミュニケーションをなきゃいけないということ、多分みんなまた今まで以上に思ってくれたんじゃないかなというふうに思います。

あと、また大事なものは、我々もそれをまさに聞き放しじゃなくて、ちゃんとそれは反映させるし、それから、皆さんも分からないでおっしゃっている部分も結構あったりするケースがあるんですね。それがこちらからちゃんとお話することで理解していただくというケースもあります。その点では、やっぱりコミュニケーションというのはまさに大事なんだろうと思います。

これからも我々、今日のテーマでいう女性の創業であれば、本当に今日は皆さんのパワーは無限大だというのはもう本当に感じましたんで、それを生かせるように頑張っていきますから、ぜひお互いがうまく理解し合って、より次のステップ、少しでもよくなるようにという気持ちでこれからもお付き合いできたらいいかなというふうに思います。これからもよろしくお願ひします。 ありがとうございます。

